



*Music & Management*  
STUDIES GROUP

NPO 法人ドラッカー学会  
公認研究会

活動 Report 2025





## ミュージック&マネジメント 研究会について

マネジメントはわかるけど、なぜ“ミュージック”なのかと思われたでしょうか？

当研究会は、最初は、たまたま音楽（ロック）に興味を持つ5人が、フェイスブックメッセージグループ内で好きなアーティストや楽曲、ニュース、情報などを気楽に紹介しあうことから始まりました。

しかし、そうしたやり取りを一定期間、観察フィードバックしてみると、次のことが見えてきました。それは、(1)好きなアーティストは第一線で50年近く活動を続け、彼らが生み出す楽曲は世代を超えて今も愛され続けていること。(2)そして、アーティストだけでなく、彼らを支える音楽業界もまた同様に、根強く辛抱強く企業活動が続けていること。

私たち、ドラッカーのマネジメントを勉強・追及する者として、なぜ、これら音楽関連の活動を継続し成果を上げている人達（企業）は成果を上げていけているのだろうか…という問いが生まれるのはとても自然なことでした。

音楽業界は、個人の感性や時代のブームに左右される度合いが他業界より際立って高いという点で、事業経営が

難しいとされています。それでも、生き残っているどころか、世界を席巻して牽引している会社があるのも事実です。でも、それはなぜなのか？そこには、彼らが、単に好市況やタイミングによるものではなく、好業績を生み出す普遍的な原理原則を貫いているからなのでは？という仮説が浮かび上がってきました。

そこで、私たちは、この仮説に基づき、そうした、成果を上げている音楽関係の企業（個人）の取組をマネジメントの原則に照らして取材、分析、統合、発信、活用する「研究会」にしてしまつたらどうかと考えるようになりました。そうして、そうした特殊性を持つとされる音楽業界に光を当てるからこそ、よりその普遍性を浮かび上げられ、マネジメントを学ぶ私達自身の視野をさらに実践的に深耕・豊かにすることもできるのでは？…とも考えたのです。ミュージック&マネジメント研究会は、こうした背景で生まれました。

## 2025年度活動内容

そのような背景の中、今年我々が注目したのは、ギターメーカー、フェンダーミュージック株式会社でした。“フェンダー”の名前は、楽器を弾く人ならば多くの人が耳にするブランドで、その日本支部的な存在がフェンダーミュージック(株)です。

フェンダーミュージック(株)は2023年6月に世界初のフラッグシップストア(ギターショップを越えた「体験型」ブランド発信拠点)を日本(原宿)に開業しました。人口動態的にみれば斜陽となっていく日本に、なぜフラッグシップストアを設立したのだろうか…？これが、私たちの間に生まれた素朴な疑問でした。そして、同社についてあらためて調べていくと、過去10年で目を見張る業績を上げていること、そして、それ以上に日本の文

化を世界に発信するようなアプローチすら展開していることにも気づきました。

そこで、私たちはこう考えました。「それなら、社長に取材を申し入れてその内容を年報『文明とマネジメント』に載せるのはどうだろうか？そして、いっそこうした取材活動を研究会にしちゃおう！」…と。そこで、私たちはさっそく行動に移し本日に取材を申し入れ、2025年10月27日にその機会を得たのです。結果は大成！多くの収穫を得ました。その経緯を以下ご紹介します。

## フェンダーミュージック株式会社とは？

フェンダーミュージック株式会社は、米国に拠点を置くギターメーカーの日本法人です。2015年に、日本に基盤を置いてよりゼロから出発し、10年間で現従業員数100名近くの企業として成長し、昨年の売り上げは前年度より25%増を記録しています。何よりも、上述の、フェンダーのギターブランド発信拠点としての「フェンダーフラッグ



シップTokyo」を原宿に立ち上げ、ギターメーカーというイメージやブランド価値そのものを上げることに成功してきています。こうした躍進は、楽器メーカーとしては異例

といってもよいでしょう。なぜそういえるか。

どのような業界であっても、効果的なマネジメントを行ない優れた事業経営を進めることは難しいのが現状ですが、その中でも、前述のように、音楽業界はその難しさは他業界と比べ際立ちます。それは、音楽業界が、個人の感性や時代のブームに左右される度合いが他業界より際立つて高いという点で異質だからであるからに他ならなりません。特に、フェンダーのような楽器メーカーにおいては、さらに厳しい条件下にあるといえるでしょう。なぜなら、楽器は嗜好品であり、たとえ音楽に触れることが好きでも即その楽器を手にとろうと思うとは限らないからです。また、楽器という特性上、演奏者の嗜好や市場が変わったからそれに合わせて商品を変えていく、ということもそう簡単にはできません。加えて、現代では、バンド音楽が衰退し、楽器の使用・購入者は例えば80年代と比べて減少していると思われ、三重四重の逆風にさらされていると表現してもよいでしょう。

そのようなハンデのある厳しい状況の中、なぜフェンダーミュージックは快進撃を続けているのか。なぜ、衰退するどころか新たな市場を切り拓き続けているのか。なぜ、中国、韓国にも進出し、オーストラリアでも圧倒的なナンバーワンブランドへと成長させるという快挙を成し遂げられているのか。なぜ、エリック・クラプトンやリッチー・ブラックモアといった伝説的ギタリストが長年愛用し、スタジオオバンドマンも「フェンダーはやっぱ弾きやすくていい」と語るのか。

これらを探るべく、同社の代表取締役社長エドワード・コール社長にインタビューし、その軌跡、マネジメントの在り方、どのように困難を打破してきたのかなどを聞き、ドラッカーのマネジメントと照らし合わせながら学べるものを抽出してみました。



## 「当たり前」じゃ、つまらない。 ファッションの感性で描いた、 新しいフェンダー

Edward Cole 氏

フェンダーミュージックコーポレーション社長

(2026年2月16日よりFender Musical Instruments Corporation  
[フェンダー米国本社]のCEOに就任予定)

エドワード社長の前歴は、ラルフローレンジャパンの社長です。音楽業界は、本人にとって異質ではありませんが、自身も学生時代からギターを弾くなど音楽への傾倒は強く、また日本を中心としたアジア地域ではまだまだ市場に余白があること、自らほぼゼロから事業を組み立てる機会がそこにあること、この二つに魅力を感じ転身したといえます。とはいえ、ファッション業界から音楽業界への異質の転身において、壁はなかったのでしょうか。

フェンダーの日本法人は、たった二人から始まっています。その中で一番に取り組んだことが、現在一体市場は本当はどうなっているか、それをどう捉えていくかの「マーケティング戦略」、そして、どんな人と一緒に働くか「人事」でした。つまり、エドワード氏は、勝つためのシナリオ（戦略）をはじめから周到に用意し、そのなかで最も重要視したものは「マーケティング戦略」と「人事」であったというわけです。

特に、マーケティングにおいては、前職がブランドイメージの強い業界であったため、前職で活かされたブランドイメージ魅力化の知見・ノウハウを同じくブランドイメージが重要である楽器メーカーでも強みとして生かせることは間違いないでしょう。こうした背景から、冒頭の「壁」はあまり無く、逆に逆手に取って活用できたといえてよいかもしれません。

しかし、マーケティング戦略や人事戦略などは、正直言ってどこの企業でも実行しています。特に真新しいことはありません。でも、エドワード社長のそれは、従来のものとは大きく違っていたのです。ハッキリ言って、驚くほど全然違うものでした。では、どう違っていたのか。詳しくは、2026年度ドラッカー学会発行『文明とマネジメント』掲載を目標に投稿する予定です。そちらをご参照ください。





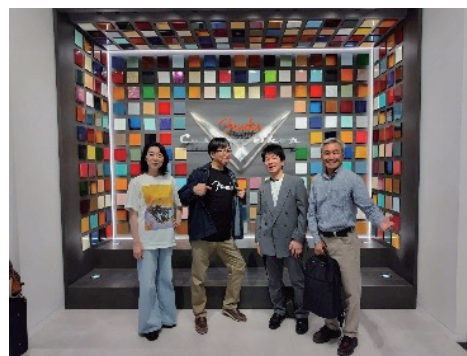
## Special Thanks ————— 御礼

本取材にあたり、フェンダーミュージック社のエドワード社長、広報室、秘書室の皆様には格別のご協力を賜りましたこと、ここに深く感謝申し上げます。



## in the future ————— 今後

私達は、今後も継続して、定期的に音楽関係を中心に取材を行ない、ドラッカーが提唱したマネジメントに照らし合わせながら、従来に無い新しい示唆、そして時代が変わっても揺るがない（マネジメントの）普遍性や真理を研ぎ澄ませていきたいと考えています。それこそが、あらゆる業界の経営者や個人へも、「活路を見出すことが実践的に可能なのだ」という希望とメッセージへとつながる…こんな風に考えています。



### インタビュー当日の動き

- 11:00** Fender Flagship Tokyo 集合  
店内視察  
↓ 徒歩
- 12:30** Hendrix Curry Bar にてランチ  
ジミー・ヘンドリックス好きの  
オーナーのお店でカレーを食す  
↓ 徒歩
- 14:00** フェンダーミュージック株式会社  
Edward Cole 社長  
インタビュー
- 15:30** 移動  
↓
- 16:00** 新宿のカフェにて振り返り



## メンバーからのメッセージ

好きな世界から、マネジメントを追究できる…これに勝る楽しみはありません。青木 Rockと共に生きた青春の日々。今、マネジメントと融合し人生の新たなステージへ。武田 鳴り響く真摯な音に 歩を止めて心休まる 未来(あした)を創れ 詠み人:ひでさん 音楽とマネジメントの知恵を持ち寄り、夢をカタチにする研究会へようこそ♪ 原田